

- (1) 大それた恥すべきことをした
- (2) 例 盗みをはたらくというこの罪の重さに気がついたから。(26字)
- (3) 例 「僕」は、クジャクヤママユを右手に隠し、その手をポケットに突っ込んだまま移動するうちに、潰してしまった。(32字)
- (4) それをすつ
- (5) 盗む・潰す
- (6) イ・オ〔順不同〕
- (7) 例 エーミールにチョウの収集家としての自負を否定されたから。(28字)
- (8) イ
- (9) ウ
- (10) 1 闇の中  
2 Aア Bエ

【解説】(1) 「下劣」とは、品性が劣っていること、正しい道を踏んでいないこと。5〜6行目に、「大それた恥すべきことをした」とあり、自分のした行為を、品性の欠けた誤ったものだとして認めていることが分かる。

(2) 直前の段落に書かれた心情を理解する。良心に目覚めた「僕」は、盗みをした自分は「下劣なやつ」で、また、ものを盗んだという行為は「大それた恥すべきこと」と悟っている。つまり、自分のしてしまった「盗みをはたらく」という罪の重大さに気がついたのである。

【設問】盗みをはたらくような罪深い人間だと思われたくないから。(27字)  
(自分自身がどのように見られるかを気にしているのではない。自分が盗みをしてしまったことの罪深さに気づいたという内容に直す。)

(3) 冒頭の「チョウを右手に隠して、僕は階段を下りた。」以降の、「僕」の動きを捉える。チョウを隠していた手を、「上着のポケットに突っ込んだ」まま、ゆつくりと歩き続けたが、ふと、自分の犯した罪を意識し、エーミールの部屋に引き返すため、階段を駆け上がった。しかし、エーミールの机の上にチョウを置いたときにはチョウは潰れていたのである。

【設問】チョウを隠した右手を「ポケットに突っ込んだまま」という要素は不可欠である。

(4) クジャクヤママユを潰してしまったことに対する「僕」の気持ちは、第三段落に書かれている。この段落の最後の文にあるように、このチョウを元に戻すためなら何でもしようと思えるくらい、かけがえないものだと思つていことが読み取れる。

(5) クジャクヤママユを最初から盗むつもりではなかったことと、クジャクヤママユを潰すつもりはなかったこと、「僕」はこの二点を本当は伝えたかったのである。

(6) エーミールが「そんなやつ」と言つて軽蔑しているのは、一つは「僕」が盗みをしたことである。もう一つは、53〜54行目で「君がチョウをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができた」と言っていることから、チョウを乱暴に扱つて潰したことである。

(7) 直前の「君がチョウをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができた」という言葉は、「僕」はチョウを収集しているくせにひどい取り扱いはしなくていいという意味である。それは「僕」がチョウを大切に思う気持ちを自負していたことを否定するような言葉でもある。このことが、「僕」をひどく傷つけ、「喉笛に飛び」かかりそうになるくらい、「僕」を追い込んだのである。

(8) 「僕」が償いを申し出たことに対し、エーミールがどういう対応をしたかということから考える。エーミールは謝罪も償いの申し出も受け入れず、かといって罵ることさえせず、ただ、「僕」を眺めて軽蔑するだけだった。「僕」は、そ